



地下街探検



第一回 八重洲地下街

東京の代表的な地下街として、ま

ず思い浮かぶのが「八重洲地下街」。

ここは、歴史も古く、規模も大きく、東京の玄関口である東京駅八重洲口前という絶好の立地にある。その通路は、都内のほかの地下街と比べても広々としていて、フランス語で大通りである「アベニュー」という感じの貫禄を漂わせている。

一九六五年オープンなので、来年で五十周年。二〇〇七年から始まったリニューアルは、一年に全館完了。一昔前は、八重洲口地上の飲食街と同様にオヤジっぽいイメージが漂っていた記憶があるが、今来てみると、洗練されたショッピングモールへと変貌している。

テナントも、〇し向けのファッションや化粧品・小物、最近流行りのスペイン・バル、南インドカレーやサンドイッチカフェなどの飲食店が並んでいて小ざれいで楽しそう。一方で利用者の六割強という男性向けの衣料品や靴などの店、夜は居酒屋としてにぎわっている飲食店も。郵便局やネイル、マッサージ、旅行代理店や保険ショップなどサービス分野の店舗も充実している。コンビニも大手三社が出揃い、天井ファス

トフードの「てんや」はここが一号店、「スターバックスコーヒー」は国内三号店というから、やはりこの場所は東京の商業地として一等地なのだと言えよう。

この地下街、今までなんとなく歩いていて、この地上は八重洲のどのあたりなのかと改めて考えてみたが、駅前の外堀通りと八重洲通りの真下に広がっている。通路脇の扉を開けて、地上に出る非常用の階段を上らせてもらおうと、なんとそこは八重洲通りの中央分離帯。すぐそこには銀座と日本橋を結ぶ中央通りが見える。

朝は、日本橋や京橋方面へと向かう通勤者で地下街通路は混雑するが、昼は新幹線などを利用する旅行者も多い。丸ビル以後の丸の内側の再開発が進むと同時に、こちら八重洲地下街の来客数も増えたとか。

地下街コラム

駅に直結する地下街には地下駐車場とともに開発されたものが多い。高度成長期にモーターゼーションの発達で駅に車で行く人が増え、駅前に駐車場を作る必要が生じた。そこで道路下に地下駐車場を整備し、同時に歩行者用通路と商業施設が造られたというわけだ。

八重洲地下街は、東京都の特許事業として一九五八年に会社設立、六五年に第一期の街区が開業している。